

## 文献案内：インドネシア1965年事件のなかの女性たち

テオドラ・J・エルリーナ

1965年の出来事はインドネシア現代史の政治的、社会学的な背景を形作るターニングポイントだった。それゆえに、この事件をインドネシア創生の「ミステリー」としつづける新秩序体制さらに現政権の政治的思惑によって書かれた文書、研究が様々に存在し、その数はさらに増えようとしている。インドネシア社会史協会 (ISSI)<sup>1</sup>は現在までに1965年事件に関する200以上の書籍、論文および一次資料を確認している。インドネシア語あるいは英語によって書かれたこれら研究者や作家の著作は、そのほとんどが9月30日運動 (G30S) によるクーデターの失敗に関するものである。そこでは限られた、また信憑性の乏しい資料を駆使して、7人の将軍の拉致と東ジャワ、ルバン・ブアヤでのその殺害へと向かう過程がさまざまなシナリオで描かれている。そのなかでインドネシア共産党 (PKI)、国軍、CIA、スハルト、さらにスカルノがこの事件にどのように関与したのかが議論されている。長年にわたってスハルト新秩序体制下で政府は、将軍たちの殺害を「国民的悲劇」だと宣言してきた。だが私の考えは違う。推定100万人にもおよぶPKI党员、その支援者、左派系大衆団体のメンバーたちに対する残忍な暴力と虐殺、このことこそ1965年の悲劇と呼ばれるべきである。

1965年に関する著作のほとんどは、インドネシア政府と米国政府、またPKIと左派系大衆団体の公式文書に基づいて書かれている。当時、放火や破壊活動が広がるなかで、被害を受けながら逃げた人々は資料を安全な場所に隠す必要があった。したがって現在、被害者の状況についての資料は公には残されておらず、新秩序体制による公式文書はこの国家暴力を正当化するための虚偽に満ちている。相互に矛盾していたり論理的整合性のない左翼の人間と組織についての嘘やつくり話が人々の間に広がっていった。スハルト体制下では政府の公式発表以外の説明が禁止されたために、インドネシアの人々は政府発表を信じこむか、あるいは疑問を押し殺して沈黙するかしかなかった。スハルト新秩序体制の崩壊とともにやっと1965年に関する政府の公式説明に疑いを持つ人々による新たな調査が開始された。

被害者たちの回顧録は1965年の事件を理解するための重要資料である。だがスハルト新秩序体制のもとで、それらの出版物に対しては検閲が行われた。そのためこうした資料は非公然にしか出回ることができず、したがってその価格が上がりあがった。海外において英語で出版された回顧録、例えばカ

<sup>1</sup> Institut Sejarah Sosial Indonesia (インドネシア社会史協会) は歴史研究者と読者によって2002年に設立された。東ジャカルタに事務所がある。

<sup>2</sup> Stanley Adi Prasetyo, "Orde Baru 31 Tahun, 2.000 Judul Buku Dilarang", *Tempo Interaktif*, 29 Januari 1996, in Human Rights Watch Report, "Dismantling Soeharto-Era Barriers" (August 1998). Angka ini hanya perkiraan.

ーメル・ブディアルジョ(1995)<sup>3</sup>などは検閲を受けずにすんだ。

スハルト時代の30年間にわたって元政治囚に対しては弾圧と厳しい監視がつづけられてきた。それゆえに元政治囚は自らの体験を語ることを恐れ、とくに同じ村や隔離地域に住むものに対してそれを語ることはなかった。オランダの社会学者サスキア・E・ウィエリングは非合法化された左翼女性組織ゲルワニ(インドネシア女性運動)について調査し1980年代にそれを博士論文<sup>4</sup>としてまとめているが、その聞き取りは秘密裏におこなわれねばならなかった。さらにこの学位論文のインドネシア語訳はスハルト体制が崩壊してからやっとインドネシアで発表された。一方、ルース・ハプラーのペンネームで書かれたジツケ・ムルダの作品は早くから発表され、そこではブル島における元政治囚の妻たちの経験が語られている。<sup>5</sup>

今ではほとんどの被害者たちが自らの体験を語り始めているが、それを書き記そうという人は少ない。私は聞き取りを進めるなかで、被害者の語りは1965年の事件とその後の困難な歳月を理解するために非常に重要な資料であると確信した。ストウツ・テルケルが被害者の経験とは同縁化され、抑圧された社会集団の歴史だと述べたように、被害者の語りは1965年の事件を理解するためのオルタナティブな情報源なのであり、歴史を再構築するための信頼にたる資料である<sup>6</sup>。それゆえ、下からの語りを提起し、否認されてきた国家犯罪を明らかにするためには、オーラル・ヒストリー研究が重要となる。インドネシア社会史協会は2000年から1965年の被害者に対する調査を開始し、ジャワ、バリ、ランボン、パルにおいて200人以上の被害者への聞き取りをおこなった。そしてそれは2004年、ELSAMおよびTRuKとの共著として出版された。<sup>7</sup>

本論では女性被害者たちの経験に関する文献を紹介する。その際、言っておかねばならないのは、2001におよぶ1965年の事件に関する文献のなかで、インドネシア社会史協会が選り出した本はたった9冊しかないということである。その9冊とは、ブディアルジョ、ハフェラール、ウェリング、マルニの各自伝<sup>8</sup>、ゲルワニの元事務局長スラミ<sup>9</sup>の著書、ゲルワニの教育部門幹部だったスジナ(Sudjinah)<sup>10</sup>の著書、アンネ・ポールマン(Anne Pohlman)<sup>11</sup>、ヤヤン・ウィルディハルト(Yayan Wiludiharto)とヨゼーファ・スカルティニンシー(Josepha Sukartiningasih)<sup>12</sup>による文書である。1965年の女性

<sup>3</sup> Carmel Budiardjo, *Surviving Indonesia's Gulag* (London: Cassell, 1995). 他の政治囚と同様、裁判なしで4年間投獄されたBudiardjoはその後、出身国のイギリスに帰郷した。彼女はスカルノ政権で大臣のスタッフを務めた人物で、Himpunan Sarjana Indonesia (インドネシア学者協会)の会員でもあった。この団体も1966年に解散させられた。

<sup>4</sup> Saakia E. Wieringa, *Penghancuran Gerakan Perempuan di Indonesia* (Jakarta: Kalyanamitra&Garba budaya, 1999), translated by Hersri Setiawan from *Politization of Gender Relations in Indonesia: The Indonesian Women's Movement and Gerwani until the New Order State*, Dissertation, Universiteit van Amsterdam, 6 Oktober 1965.

<sup>5</sup> Ruth Havelaar, *Salamat Tinggal Indonesia* (Jakarta: Lentera, 1995). Translated from *Quartering: A Story of a Marriage in Indonesia during the Eighties* (Monash Papers on Southeast Asia, No. 24, 1991)

<sup>6</sup> John Roosa et al., eds, *Tahun yang Tak pernah Berakhir, Memahami Pengalaman Korban 65*, *Esai-esai Sejarah Lisan* (Jakarta: ELSAM, TRuK, & ISSI, 2004)

<sup>7</sup> 同上

<sup>8</sup> Ibu Marni, "I am a Leaf in a Storm", terj. Anton Lucas, *Indonesia*, No. 59 (1985)

<sup>9</sup> Sulami, *Perempuan-Kebenaran dan Penjara* (Jakarta: Cipta Lestari, 1999)

<sup>10</sup> Sudjinah, *Terempas Gelombang Pasang, Riwayat Wartawati dalam Penjara Orde baru* (Jakarta: Penerbit Pustaka Utan Kayu, 2003)

<sup>11</sup> Anne Pohlman, "A Fragment of a Story: Gerwani and *Tapol Experiences*" (August, 200), diambil dari <http://www.murdoch.edu.au/intersections/issue10>.

<sup>12</sup> Yayan Wiludiharto, "Penantian Panjang di Jalan Penuh Batas", hal. 61-85, dan Josepha Sukartiningasih, "Ketika Perempuan menjadi *Tapol*", hal. 87-112, in John Roosa et al., op.cit

被害者たちに関する資料が乏しいことには、説明すべき理由がある。第一に、男性被害者と比べて女性被害者は概して低い教育課程しか受けていない。回顧録を書いている男性被害者たちは1965年以前には詩人や作家をしているなど学のある人々であり、自分の作品を出版することにも慣れていて、第二に、女性たちは何よりもまず家族の世話をする役割を負っており、書き物をするような時間も場所も持っていなかった。第三に、左翼女性運動を壊滅させた後、女性の政治活動そのものに犯罪者というイメージが植え付けられた。そのために女性たちが自らの痛ましい経験を表現することが困難になったのである。ルバン・プアヤでの将軍殺害と拷問(性的暴行)にゲルワニの女性たちが参加していた、との宣伝がなされ、これこそが左翼の不道徳性を証明する証拠だとされた。これはまた他の集団が彼らを排除する根拠ともなった。実際、このようなプロパガンダによって1965年事件の様々な暴力が引き起こされていく。

女性たちは「悪魔の共産主義者」という烙印だけでなく、「悪魔の女」という烙印をも押された。この烙印は社会のなかでの女性の役割に関する家長制的伝統と表裏をなし、女性は政治にかかわるべきではない、もしかかわれば秩序が破壊されることになるという保守的な価値観が強められることになった。

政府からの迫害、社会からの非難を恐れて女性被害者たちの多くが自らの経験を封印した。彼女たちは自分の子どもにさえもその経験を語らなかった。母親たちは子どもから自分が受けた迫害のせいであらうと家族の生活が困難になっていると責められるのを恐れた。

## 女性被害者の著作

ウィエリング(1990)は植民地時代から独立、そして1966年の崩壊に至るインドネシア女性運動の理論および実践面での歴史について、深くかつ広範な解説を提供している。スカルノとPKIとの政治関係を背景とするゲルワニの歴史に焦点をあてながら、ウィエリングはフェミニズム概念の有効性について検討し、その上でゲルワニの女性性に関する思想は保守的だったと結論づけている。だが実際に女性/母性の境界を越えて社会運動を展開し、女性の権利を政治の場に押し上げたのはこのゲルワニによる大衆的女性運動だった。

ゲルワニの文書、機関紙、指導者へのインタビューなどに基づいて書かれたウィエリングの研究は、ゲルワニの公式的な側面を中心にしたものである。彼女によれば、ゲルワニの全国的方針は最高指導部によってほぼ決定されていたが、各現場でのその執行に関しては地方のリーダーたちの柔軟な活動が認められており、各地の力量に応じて草の根レベルで独自の活動を行うことができていた。ゲルワニはたとえばメラティ(Melati)幼稚園の建設などのプロジェクトの実施にあたってつねに財政的な自立性を確保しようと努めていたが、各支部の活動家たちは自分たちの組織財政のひっ迫状況を解決するために別の手段を採る努力をしていた。このようなことから、地域のゲルワニ支部の活動状況、例えば中央指導部からの指示に対する対応や地域住民との共同事業などについてそのダイナミックな実態を研究することが今後、重要だといえる。

ヨゼーファ・スカルティニンシーはジャワとパリの様々な刑務所で政治囚となった女性被害者たち

の経験について書いている<sup>13</sup>。政治囚のすべてがゲルワニのメンバーだったわけではなく、そのなかには主婦や左翼活動家の妻らも含まれていた。彼女たちは「共産主義者を根絶せよ」という国軍司令官からの命令によって逮捕されたのである。

ゲルワニのメンバー、とくに1950年代まだゲルワニがゲルウイス（覚醒したインドネシア女性運動）と名乗っていた時代からのメンバーたちは1940年代にオランダと日本に対する独立戦争を闘った戦士たちだった。（p.89）スカルティニンシーの文章にはスナルティ（Sunarti）女史の話が載せられている。彼女は自分がゲルワニに参加した理由について「自分の村で女性たちを支援したり社会的な連帯活動（gotong-royong）に取り組んでいた唯一の女性団体がゲルワニだったから」と語っている。（p.91）こうしてゲルワニはインドネシアの歴史上最大の女性団体になったのである。

その活動が自分や家族の人生に惨劇を引き起こすことになるうとは、その当時まだ誰も思ってもみなかった。ゲルワニの現場指導者の一人だったスジナ<sup>14</sup>でさえ次のように述べている。「ドゥウィコラ（Dwikora）への志願兵を養成するための訓練が（ルバン・プアヤ）で開かれたとき、私たち、とくに中央指導部にいたメンバーはゲルワニの第四回全国総会<sup>15</sup>の準備で忙しかった。」彼女はまたあの虐殺は、PKIを後ろ盾にしたスカルノから権力を奪い取るために仕組まれた国軍の計画の一部だった、としている。スラミは「あれは高度の政治的戦争だった」<sup>16</sup>とも言う。だがスラミもスジナも1950年代から活動に参加していたのにもかかわらず、その活動経験については述べていない。

ゲルワニの犯罪と不道徳性についての体制側のプロパガンダがいかにスジナのあの出来事についての認識に影響を与えたのか、彼女の著書から読み取ることができる。彼女がゲルワニをスカルノの「マレーシア打倒」キャンペーンの軍事訓練から撤退させようと試みたという一節では、軍事訓練に参加したゲルワニのメンバーたちは中央指導部の正式任務としてではなかった<sup>17</sup>、と書いている。だが現存する記録にはそうは書かれていない。ゲルワニは「マレーシア打倒」作戦に積極的に参加すると、自ら公式に宣言している。

逮捕されたゲルワニのメンバーとその他の女性の政治囚は監獄で拷問をうけている。なかにはスラミ、スジナ、スリ・アンバル・ルクミアティ（Sri Ambar Rukmiati）、そしてスハルティ・ハルソノ（Suharti Harsono）らのように裁判にかけられたものもいたが、正式なものではなかった。ポールマン<sup>18</sup>の記録には、拘禁と分類の方法、特別軍事法廷（Mahmillub）による被告人の権利の剥奪、取調べのなかでの様々な拷問、政治囚がおかれた環境、さらに釈放されたのちも続く政治囚への人権侵害などが記されている。この記録によれば、女性の政治囚はより弱い立場に置かれ、つねにセクハラ、性的暴行と強姦の標的とされた事実が明確に示されている。こうした女性に対してインドネシア各地で行使された暴力の実態とパターンをさらに調査する必要があるだろう。

<sup>13</sup> Josepha Sukartiningsih, "When Women Become Detainees", in John Roosa et al., Eds, *The Neverending Years: Oral History Essays on Understanding the Experience of 1965 Victims* (Jakarta, Elsam, TRuK, & ISSI 2004).

<sup>14</sup> 同P.4

<sup>15</sup> 同P.3

<sup>16</sup> 同P.14

<sup>17</sup> 同P.2

<sup>18</sup> Anne Pohlman, "A Fragment of a Story: Gerwani and *Tapol* Experiences" (August, 2004), diambil dari <http://www.sshe.murdoch.edu.au/intersections/issue10>

子どもと引き離されることも彼女たちにとっては大きな苦痛だった。イギリス人の女性研究者であり、政府の経済問題アドバイザーだったカーメル・ブディアルジョ<sup>19</sup>は一時的にジャカルタ南部に収監された際、赤ちゃんに乳をやっている女性と同房になった。この女性はカーメルに次のように語った。

「私は昨日の朝、夫と一緒に逮捕されました。ここに連れてこられたのは私たちが最初だったようです。はじめ子どもと一緒に連れて行くことが許されなかったのですが、こんな赤ん坊を小さな子どもたちと一緒に残していくことはできなかつた。子どもたちは赤ちゃんの面倒をみるなんてできないのですから。」<sup>20</sup>カーメルはブキット・ドゥリ刑務所に移されたとき、また別の赤ちゃんと同房になった。

「私の房は150人ほどの女性が収容された3区画のなかでは最大で、天井がとても高く、天井近くに鉄格子の入った小さな窓が二つあった。房には私以外に4人の女性がいてみな20代前半の新入りだった。うち一人は男の赤ちゃんを連れていて、結局、3人用のこの房のなかで5人と赤ちゃん1人が生活した。」<sup>21</sup>

カーメル・ブディアルジョとスラミ、スジナ、そしてヨゼーファ・スカルティニンシーは、女性政治囚たちが拘禁と拷問のなかで生きるために行った個人的、あるいは集団的な闘いの様子を描いている。最低限の栄養しか与えられないなかで、それは肉体的な闘いであるばかりでなく、精神的、さらに言えば知的な闘いでもあった。カーメルは自分が他の政治囚に英語を教えたとも書いている。同じくブキット・ドゥリ刑務所に囚われたスラミとスジナは、自分たちがカーメルと一緒に刑務所のなかで文化活動をした、と記している。自分たちで芝居の脚本を書き、それを上演したという。

政治囚の妻とその子どもたちも、こうした状況のなかで別の困難を強いられた。男性の元政治囚のなかには、もし家族からの食料の差し入れがなければ、自分は獄中生活に耐え抜くことができなかつただろう、というものもある。1970年代、新秩序体制は食料の配給を停止する決定を行ったのである。ヤヤン・ウィルディハルトは被害者の家族たち、とくに妻や子どもたちが当局の厳しい監視の下で生き抜いたその闘いの様子を記している。夫が逮捕されると、妻がたった一人で家族全員の面倒をみることになった。周囲からの差別と孤立のなかで彼女たちは子どもの世話をし、同時に獄中の夫の面倒もみなければならなかつた。もし当局に「汚染された環境」の過去がある、つまり直接、間接に「共産主義者」あるいはその組織と関係があった人間だと知られば仕事をクビになることもあった。メニク (Menik) はウィルディハルトに次のように語っている。「いつも恐怖に怯えていました。私は当時、車が通りすぎる音を聞くたびに、心臓が張り裂けそうなほど動悸がしたものです。」<sup>22</sup>

政治囚の家族たちは生きるために、金目のものならなんでも売りにだした。子どもたちは経済的理由から学校に行けなくなった。子どもたちは学校で友だちと教師から耐え難い屈辱を受けた。例えばウィルディハルトの文章のなかでパルトノ (Partono) はこう述べている。「子どもの頃、外でスポーツをするのが大好きだった。でもそのころ私がPKIの子どもらしいと知ると周りの人々は、PKIの家族もお前も遊び場に入ってはいけなない。PKIの子どもは『社会のクズ』だからだ。役立たずだ、といわれたものです。」<sup>23</sup>

<sup>19</sup> Carmel Budiardjo, *Surviving Indonesia's Gulag* (London: Cassell, 1995)

<sup>20</sup> 同P.8

<sup>21</sup> 同P.150

<sup>22</sup> 同P.67

<sup>23</sup> 同PP.79-80

## 最後に

1965年の悲劇はインドネシア現代史の研究に重大な影響を与えてきた。国内外の様々な研究者によって多くの調査・研究がなされてはいるが、この悲劇の規模、そしてその一般の人々の人生への影響を明らかにするためには、多くの側面でさらなる調査が必要である。なかでも急がれるべきなのは、女性の経験について被害者としてだけでなく、活動家としての女性また家父長制社会における女性としてのその経験に関する研究である。これまで私が読んだ女性たちの経験をベースにしなが、以下のテーマについて今後さらに研究する必要があると考える。

1. 1965年事件以前の草の根レベルでの女性活動家の経験をベースとして、女性運動史を再構築すること。
2. 1965年の大規模粛清に関連してインドネシア各地で行われた女性への暴力について、その場所と構造の全体像を明らかにすること。
3. 国家による監視下で家族を支えた政治囚の妻たちの闘いを記録すること。
4. 真実を語り、正義を実現することを可能にするための社会的取り組みや制度の整備に関して、女性被害者たちの考えを調査すること。

【英語訳 Anom Astika】

【日本語訳 河合大輔】

## 1965年事件とその後に関する文献目録

—インドネシア社会史協会の資料から

### スハルト体制編纂による9月30日運動の記録

- Atmowiloto, Arswendo, *The Treachery of G30S/PKI* (Jakarta: Sinar Harapan, 1986; reprints 1988, 1994).  
A "novelization" of the film of the same name, with still photos from the film.
- Central Intelligence Agency, *Indonesia—1965: The Coup that Backfired* (Washington: CIA, 1968).
- Dinas Sejarah Tentara Nasional Indonesia Angkatan Darat, *The Demolition of G30S/PKI Coup* (Bandung, 1982).
- Dinuth, Alex, *Selected Documents around G.30.S/PKI* (Jakarta: Intermasa, 1997).
- *National Alert and the Latent Danger of Communism* (Jakarta: Intermasa, 1997).
- Djanwar, *Revealing The Treachery and Coup of G30S/PKI that Secure Pancasila and Constitution of 1945* (Bandung, 1986).
- Facts Around "30 September Movement", Special Edition no. 2 (Jakarta: The Army Center of Information,

- 5 November 1965),  
30 September Movement, *The Coup of Indonesian Communist Party: Its Background, Actions and Its Demolition (and English translation)* (Jakarta, 1994).  
*The Origin of Building the Sacred Pancasila Monument* (Jakarta: Departement of Education and Culture, 1982).  
Supreme Command Operation, "Serial of Speeches and Official Statements around "30 September Movement", (Djakarta, 1965).  
Kopkamtib (Command Operation of Security and Order), *Indonesian Communist Party's 30 September Movement* (1978).  
Center of History and Tradition of Indonesian Armed Forces, Headquarter of Indonesian Armed Forces, *The Latent Danger of Communism in Indonesia* (Jakarta, 1994), four volumes. [vol. 1: *The Growth of Movement and The Treachery of Communism in Indonesia (1913-1948)*; vol. 2: *The Demolition of PKI's Coup (1948)*; vol. 3: *Consolidation and Infiltration of PKI (1950-59)*; vol. 4, part A: *The Offensive of Manipolis and Revolutionary PKI till the Dawn of G30S/PKI Coup and its Demolition (1959-65)*, part B: *Destroying the Remnants of Communism in Every Kind of Its Manifestation (1966-90)*.  
Nugroho Notosusanto, *40 Days of G30S Break Down* (Jakarta: Staf of Defence 1966).  
Nugroho Notosusanto and Ismail Saleh, *The Coup Attempt of the 'September 30 Movement' in Indonesia* (Jakarta: Pemimbing, 1968). Indonesian translation: *Tragedi Nasional: Percobaan Kup G 30 S/PKI di Indonesia* (Jakarta: Intermasa, 1989; four printings 1989-93).  
Poesponegoro, Marwati Djoened and Nugroho Notosusanto, *Indonesian National History vol. VI* (Jakarta: Department of Education and Culture, PN Balai Pustaka, 1974; fifth reprint 1986), pp. 387-415  
Secretary of the 8th Regional Military Command of Brawijaya, *Trisula Operation of the 8th Regional Military Command of Brawijaya*, ed. 1 (Surabaya: Yayasan Taman Tjandrawilwatikta, 1969)  
Soeharto, Soeharto: *My Thoughts, My Word, and My Deeds*  
Soerojo, Soegiarso, *Siapa Menabur Angin akan Menuai Badai: G30S-PKI dan Peran Bung Karno* (Jakarta: cet. 1, Mei; cet. 2, September; cet. 3, November, diterbitkan sendiri oleh penulis)  
Susilomurti and S. Etjip, *The Dawn Terror: Facts on the Treachery of G30S/PKI* (Jakarta: Jajasan Dharma Sedjahtera, 1966).  
Sunyoto, Agus, dkk., *Banser Berjihad Menumpas PKI* (Tulungagung: Lembaga Kajian dan Pengembangan PW. GP. Ansor Jatim & Pesulukan Thoriqoh Agung [PETA] Tulung Agung, 1969)  
Tim Cidesindo, *Membuka Lipatan Sejarah: Menguak Fakta Gerakan PKI* (Jakarta: Pustaka Cidesindo, 1999).  
Tjondronegoro, Dharmawan, *Ledakan Fitnah Subversi G-30-S* (Jakarta: Matoa, 1966).

## 一次資料

- "Selected Documents Relating to the 'September 30<sup>th</sup> Movement' and Its Epilogue," *Indonesia*, 1, 1966.  
"Report from East Java [report by an intelligence officer in November 1968]," *Indonesia* (1968).

## 政治囚による被告人陳述

- Iskandar Subekti Yusuf, "Liberation Path of Indonesian People," 1972.  
 Col. Latief, eksepsi 5 May 1978. (Published in Amsterdam by Komitee Indonesia in 1978, also as "Colonel Latief's Defense," *Tapol Bulletin* No. 35 (August 1979).  
 Munir, "In Defence of Independence, Democracy and Justice," 1973.  
 Subandrio, "The Defence of (Pledoci) Dr. Soebandrio," by Yap Thiam Hien (October 17, 1966), in Y.T. Hien, *Negara, HAM & Demokrasi* (Jakarta: YLBHI, 1998), pp. 213-236.  
 Sudisman, *Analysis of Responsibility*, translated by Ben Anderson (Melbourne, 1975).

## 最高軍事法廷の裁判資料

- I. "The Movement of 30 September" in front of Supreme Military Court, 1. Case of Njono (Jakarta: Pusat Pendidikan Kehakiman A.D., not dated). Trial in February 1966; published no earlier than May 1966.
- II. "The Movement of 30 September" in front of Supreme Military Court, 2. Case of Untung (Jakarta: Center of Army Judge Training, 1966). Trial in March 1966.
- III. "The Movement of 30 September" in front of Supreme Military Court 3. Case of Subandrio (Center of Army Judge Training, 1966?), two volumes: Also, Let. Kol. Ali Said dan Let. Kol. Durmawel Ahmad, *Pengupas Fitnah Chianat* (Jakarta: Ethika, 1966?).

*The Process of Jusuf Muda Dalam* (Jakarta: Special Field of Supreme Attorney, 1967).

## 9月30日運動の政治囚に関する政府文書

Indonesian Department of Foreign Affairs, Indonesian Government Policy in Dealing with the G30S/PKI Detainees (Jakarta, 1978).

## 回顧録、自叙伝、伝記

- Anon, "By the Banks of the Brantas", appendix A of Human Rights Watch, *Injustice, Persecution, Eviction: A Human Rights Update on Indonesia and East Timor* (New York, 1990).  
 Bud., S., "Salemba," serialized in *Arena*, part 5: "Indoktrinasi di Lapangan Salemba."  
 Budiardjo, Carmel, *Surviving Indonesia's Gulag* (London: Cassell, 1995).  
 Dani, Omar, God, Use My Heart, My Mind and My Hand: The Defense Statement of Omar Dani (Jakarta:



- ISAI, 2001).
- Hanafi, A.M., *A.M. Hanafi Menggugat* (Lile, France: Edition Montblanc, 1998).
- Havelaar, Ruth (Jitske Mulder), *Goodbye Indonesia* (Jakarta: Lentera, 1995). Translation of *Quartaring: A Story of a Marriage in Indonesia During the Eighties* (Monash Papers on Southeast Asia, no. 24, 1991).
- Hersri, "Keeping Your Head: Memoir of Detention in Prison," *Inside Indonesia* (October 1984).
- Hersri, "Dua Wajah dalam Satu Haribaan: Warna-warna Pendewasaan di Pulau Buru," *Prisma* (Oktober 1979).
- Hersri, "Art and Entertainment in New Order's Jails," *Indonesia*, no. 59 (1985).
- Hersri, *Memoar Pulau Buru* (Magelang: IndonesiaTera, 2004)
- Ibu Marni, "I am a Leaf in a Storm," trans. by Anton Lucas, *Indonesia* 47 (April 1989).
- Karim DP, A., "Tiga Faktor Penyebab G30S," lecture in Jakarta at PAKORBA seminar, 25 October 1999.
- Kusni, JJ., *Di Tengah Pergolakan: Seorang Dayak "Rengan Tingang Putra Naga" di Pedesaan Jawa* (Yogyakarta: Penerbit Ombak, 2005)
- Kusni, JJ., *Membela Martabat Diri dan Indonesia: Koperasi Restoran Indonesia di Paris* (Yogyakarta: Penerbit Ombak, 2005)
- Latief, Col., *Serangan Umum 1 Maret 1949 di Ibu Kota R.I. Yogyakarta* (unpublished manuscript, 1996; 118 pages).
- Moestahal, Achmadi H., *Dari Gontor ke Pulau Buru* (Yogyakarta: Syarikat, April 2002)
- Oei Tjoe Tat, *Memoar Oei Tjoe Tat, Pembantu Presiden Soekarno* (Jakarta: Hasta Mitra, 1995).
- Pandu Nusa, "The Path of Suffering: The Report of a Political Prisoner on his Journey through Various Prison Camps in Indonesia," *Bulletin of Concerned Asian Scholars* 19: 1 (1987).
- Pramoedya Ananta Toer, *Nyanji Sunyi Seorang Bisu*, 2 volumes (Jakarta: Lentera, 1995-97).
- Pranoto Reksosamodra, "Pembuat catatan kronologis" (Jakarta, 1 April 1989; 3 pages)
- Pipit Rochijat, "Am I PKI or non-PKI?," *Indonesia* 41 (April 1986).
- Raid, Hasan, *Pergulatan Muslim Komunis* (Yogyakarta: LKPSM/Syarikat, 2001).
- Saroso, Kresno, *Dari Salemba ke Pulau Buru: Memoar Seorang Tapol Orba* (Jakarta: ISAI & Pustaka Utan Kayu, Agustus 2002)
- Siauw Giok Tjhan, untitled manuscript on G30S.
- Siauw Tiong Djin, *Siauw Giok Tjhan* (Jakarta: Hasta Mitra, 1999).
- Soebandrio, *Kesaksianku* (various editions, 2001).
- Sophiaan, Manai, *Kehormatan Bagi Yang Berhak: Bung Karno Tidak Terlibat G30S/PKI* (Jakarta: Yayasan Mencerdaskan Kehidupan Bangsa, 1994).
- Sudjinah, *Terempas Gelombang Pasang: Riwayat Wartawati dalam Penjara Orde Baru* (Jakarta: Penerbit Pustaka Utan Kayu, 2003)
- Sulami, *Parempuan-Keberaran dan Penjara* (Jakarta: Cipta Lestari, 1999).
- Sulami, *Merentang Purnama* (Jakarta: Cipta Lestari, 2001).
- Suparna (SOBSI leader), untitled autobiography, c. early 1980s, 22 chapters.

出版された被害者インタビュー

D&R, interview with Sulami, 15 May 1999.

D&R, "Wawancara Serma Boengkoes: Tahu-Tahu Jenderal yang Masih Hidup Digandeng," 12-17 April 1999.

*Raykat Merdeka*, "Ibaruri Aidit: Kesalahan PKI Harus Diungkap," 13 March 2000.

*Sydney Morning Herald*, story on the PKI ex-prisoners by Louise Williams, July 1999

*Tempo*, "Kol. A. Latief: Kami Harus Bertanggung Jawab," 12 Oktober 1998.

## 学術研究

Anderson, Benedict, and McVey, Ruth, *A Preliminary Analysis of the October 1, 1965 Coup in Indonesia* (Ithaca: Cornell University Modern Indonesia Project, 1971).

Anderson, B. & McVey, R. "What happened in Indonesia?," *New York Review of Books* (1 June 1978).

Anderson, Benedict, "How did the Generals Die?," *Indonesia* 43 (April 1987).

Bass, J., "The PKI and the Attempted Coup," *Journal of Southeast Asian Studies* Vol. No. 1 (March 1970)

Bowen, C., *From the Ashes: The Rise and Fall of the PKI* (Sydney, 1990).

Brackman, Arnold, *The Communist Collapse in Indonesia* (New York: Norton, 1969).

--- *Indonesia: The Gestapu Affair* (American-Asian Educational Exchange, 1969)

Budiardjo, Carmel, "Indonesia: Mass extermination and the consolidation of authoritarian power" in A. George, ed., *Western State Terrorism* (Polity Press, 1991).

Bunnell, Frederick, "American 'low posture' Policy toward Indonesia in the Months Leading to the 1965 Coup" *Indonesia* No. 50 (October 1990).

Brands, H.W., "The Limits of Manipulation: How the United States Didn't Topple Sukarno," *The Journal of American History*, 76: 3 (December 1989).

Cayrac-Blanchard, Françoise, *Le Parti Communiste Indonésien* (Paris: Armand Colin, 1973).

Center for Information Analysis, *Gerakan 30 September: Antara Fakta dan Rekayasa* (Yogyakarta: Center for Information Analysis, 1999).

Cribb, Robert, ed., *The Indonesian Killings: 1965-1966: Studies from Java and Bali* (Clayton, Victoria: Monash University, 1990).

Crouch, Harold, *The Army and Politics in Indonesia* (Ithaca: Cornell University Press, 1978).

--- "Another Look at the Indonesian 'Coup'," *Indonesia* 15 (April 1973).

Dake, A.C.A., *In the Spirit of the Red Banteng: Indonesian Communism between Moscow and Peking 1959-1965* (The Hague, 1973).

Fealy, Greg, *The Release of Indonesia's Political Prisoners: Domestic vs. Foreign Policy* (Clayton: Monash University Centre for Southeast Asian Studies, 1995).

Goodfellow, Rob, "Api Dalam Sekam: The New Order and the Ideology of Anti-Communism" (Monash University, Center of Southeast Asian Studies, Working Paper 95, 1995).

Gunawan, Basuki., "Political Mobilization in Indonesia: Nationalists against Communists," *Modern Asian Studies* 7: 4 (1973).

Gunawan, Basuki., *Kudeta, Staaatsgreep in Djakarta, de Achtergronden van de 30 September-Beweging in Indonesie* (Meppel: Boom, 1968).

Holtzappel, C. "The 30 September Movement: A Political Movement of the Armed Forces or an

- Intelligence Operation?," *Journal of Contemporary Asia* 9:2 (1979).
- ISAI, Bayang Bayang PKI
- Kahin, George, Nationalism and Revolution in Indonesia
- Kasenda, Peter, "Sarwo Edhie Wibowo dan Operasi Militer: Penghancur GESTAPU/PKI dan Pendobrak Orde Lama," *Prisma* (1992).
- Krisnadi, I.G., "Sistem Pertanian Kolektif Tapol Buru 1969-79," *Gerbang*, vol. 4, no. 9 (April-May 2001).
- Krisnadi, I.G., *Tahanan Politik Pulau Buru 1969-1979* (Jakarta: LP3ES, 2001).
- Kok, Jean van de, Robert Cribb, and M. Heins, "1965 and All That: History in the Politics of the New Order," *RIMA* (Summer 1991).
- Lembaga Studi Ilmu-Ilmu Kemasyarakatan (LSIK), Rangkaian Peristiwa Pemberontakan Komunis di Indonesia 1926-1948-1965 (Jakarta, 1983).
- Lev, Daniel, "The Political Role of the Army in Indonesia," *Pacific Affairs* 36: 4 (Winter 1963-64).
- "Indonesia 1965: The Year of the Coup," *Asian Survey* (February 1966).
- Lyon, Margo, *Bases of Conflict in Rural Java* (Berkeley: University of California Center for South and Southeast Asian Studies, 1970).
- Maxwell, Neville, letter to JCA, 1979.
- McGehee, Ralph, "The CIA and the White Paper on El Salvador," *The Nation*, April 11, 1981.
- "Should the US Fight Secret Wars?," *Harpers*, December 1984.
- McVey, Ruth T., "Indonesian Communism and China," in Tang Tsou, ed., *China in Crisis*, 2 vols. (Chicago, 1968).
- McVey, Ruth, ed., *Context, Meaning and Power in Southeast Asia* (Ithaca: SEAP, 1986); article on "The Wayang Controversy in Indonesian Communism."
- Monash University seminar "Trauma of 1965" 1987.
- Mortimer, Rex, *Indonesian Communism under Sukarno: Ideology and Politics, 1959-1965* (Ithaca: Cornell University Press, 1974).
- Mortimer, Rex, "The Downfall of Indonesian Communism," *The Socialist Register*, 1969.
- Mortimer, Rex, "Indonesia: Émigré Post-Mortems on the PKI," *Australian Outlook* 22: 3 (1968).
- Mrazek, Rudolf, *The United States and the Indonesian Military 1945-1965: A Study of an Intervention* (Prague: Oriental Institute, 1978), two volumes.
- Paget, R.K., "The Military in Indonesian Politics: The Burden of Power," *Pacific Affairs* (Fall 1967).
- Pauker, Guy, *The Rise and Fall of the Communist Party of Indonesia* (Santa Monica: Rand, 1969).
- Pauker, Guy, "The Gestapu Affair of 1965," *Southeast Asia: An International Journal* 1: 1-2 (1971).
- Poulgrain, Greg, *The Genesis of Konfrontasi Malaysia*
- Robinson, Geoffrey, "The Post-Coup Massacre in Bali," in Daniel Lev and Ruth McVey, eds., *Making Indonesia: Essays on Modern Indonesia in Honor of George McT. Kahin* (Ithaca: Cornell Southeast Asia Program, 1996).
- Scott, Peter Dale, "The United States and the Overthrow of Sukarno, 1965-67," *Pacific Affairs* 58 (Summer 1985).
- Coming to Jakarta
- Sen, Krishna, *Indonesian Cinema: Framing the New Order* (London: Zed Press, 1994).
- Sloan, Stephen, *A Study in Political Violence: The Indonesian Experience* (Chicago: Rand McNally, 1971).
- Sutter, John O., "Two Faces of Konfrontasi: 'Crush Malaysia' and the Gestapu," *Asian Survey* (October 1966).

- Tornquist, Olle, *The Dilemmas of Third World Communism: The Destruction of the PKI in Indonesia* (London: Zed Press, 1984).
- Van der Kroef, Justus, "Interpretations of the 1965 Coup in Indonesia," *Pacific Affairs* 48: 4 (1971).
- "Origin of the 1965 Coup in Indonesia: Probabilities and Alternatives," *Journal of Southeast Asian Studies* 3: 2 (1972).
- "Indonesia: the Battle of the 'Old' and the 'New Order,'" *Australian Outlook* 21 (April 1967).
- Weatherbee, Donald, "Interpretations of 'Gestapu': the 1965 Indonesian Coup," *World Affairs* 132: 4 (1970).
- "Phoenix Supreme: the Indonesian Communist Party and Armed Struggle," in *Armed Communist Movements in Southeast Asia* (1984).
- Webb, R.A.F. Paul, "The Sickle and the Cross: Christians and Communists in Bali, Flores, Sumba and Timor, 1965-67," *Journal of Southeast Asian Studies* 17: 1 (March 1986).
- Wertheim, W.F., "Indonesia Before and after the Untung Coup," *Pacific Affairs* (Spring-Summer 1966).
- "Suharto and the Untung Coup - The Missing Link," *Journal of Contemporary Asia* 1 (Winter 1970).
- "Whose Plot? - New Light on the 1965 Events," *Journal of Contemporary Asia* 9: 2 (1979).
- "Sejarah Tahun 1965 Yang Tersumbunyi," *Arah*, no. 1, 1990.
- Wieringa, Saskia, *Penghancuran Gerakan Perempuan di Indonesia* (Jakarta: Kalyanamitra and Garba Budaya, 1999).

## Tapol Bulletin の記事

- Tapol. "Massacres in East Java," *Tapol Bulletin*, April 1976.
- Tapol. *The trial of D.N. Aidit* Tapol Bulletin No. 41/2 September/November 1980
- Tapol. "Did Suharto Mastermind the 1965 Coup Attempt?" *Tapol Bulletin* No. 50 (March 1982).
- Tapol. *A clean up for Suharto's image* Tapol Bulletin No. 72 November 1985
- Tapol. *Purging a hundred million* Tapol Bulletin No. 78 December 1986
- Tapol. *Suharto and the 1965 Affair* Tapol Bulletin No. 78 December 1986
- Tapol. *Suharto's role in the 630s* Tapol Bulletin No. 90 December 1988
- Tapol. *Looking back at SuperSemar* Tapol Bulletin No. 92 April 1989
- Tapol. *How Washington backed the 1965 Massacre* Tapol Bulletin No. 95 October 1989
- Tapol. *US Embassy helped Suharto's 1965 death squads* Tapol Bulletin No. 99 June 1990
- Tapol. *Revelations in CIA's hidden history* Tapol Bulletin No. 100 August 1990
- Tapol. *The 1965 Massacre* Tapol Bulletin No. 101 October 1990
- Tapol. *Another look at 1965* Tapol Bulletin No. 103 February 1991
- Tapol. *A banned book and a White Book* Tapol Bulletin No. 122 April 1994
- Tapol. *Flogging the official line* Tapol Bulletin No. 128 April 1995
- Tapol. *Book on 1965 tragedy launched* Tapol Bulletin No. 132 December 1995
- Tapol, *Treatment of Indonesian Political Prisoners: Forced Labour and Transmigration* (London, 1978), 29pp.

## 米国政府関係者による文書

- CIA, Intelligence Report: Indonesia – 1965, The Coup that Backfired (1968).  
Hilsman, Roger, To Move a Nation: The Politics of Foreign Policy in the Administration of John F. Kennedy (New York: Delta, 1967).  
Green, Marshall, *Indonesia: Crisis and Transformation, 1965-67* (Washington: Compass Press, 1990).  
Jones, Howard, *Indonesia: The Possible Dream* (New York: Harcourt Brace Jovanovich, 1971).  
Tovar, Hugh, "The Indonesian Crisis of 1965-1967: A Retrospective," *International Journal of Intelligence and Counterintelligence*, 7 (Fall 1994).

## ジャーナリストによる報告

- Hughes, John, *Indonesian Upheaval* (New York: McKay, 1967).

## 映像

- Pengkhianatan G30S/PKI*. Directed by Arifin C. Noer, 1984.  
*Shadow Play*, Produced by SBS Australia, 2004

## 海外の新聞・雑誌記事

- "And How They Died," *The Economist*, 20 August 1966.  
Sutton, Horace, "Indonesia's Night of Terror," *Saturday Review*, 4 February 1967.  
"One Million Dead?," *The Economist*, 20 August 1966.  
Mallor, Bridget, "Political Killings in Indonesia," *New Statesman*, 5 August 1966.  
King, Seth S., "The Great Purge in Indonesia," *New York Times Magazine*, 8 May 1966.  
Topping, Seymour, "Slaughter of Reds Gives Indonesia a Grim Legacy," *New York Times*, 24 August 1966.  
Contenay, Jean, "Another Bloodbath?," *FEER*, 23 November 1967.  
---- "Heritage of Blood," *FEER*, 14 December 1967.  
Moser, Don, "Where the rivers ran crimson from butchery," *Life*, 1 July 1966.  
Rey, Lucien, "Dossier of the Indonesian Drama," *New Left Review* 36 (March-April 1966).

## インドネシアの新聞・雑誌記事

- “Setelah wawancara Sudomo,” *Tempo*, 10 July 1976.  
*De Tak*, no. 12, 29 Sept – 5 October 1998.  
*Kompas*, “Saya Menyesal Mayjen M.T. Haryono Tertembak,” 30 Maret 1999 [re: Bungkus].  
*Tempo*, October 1990.  
 Budiman, Arief, “Soal Tahanan Politik Bagaimana Menghadapinya,” *Tempo* (9 Januari 1973), p. 13.  
 “30 September, 7 Tahun Kemudian,” *Tempo* 3: 30 (1972), pp. 5-10.

## 小説

- Aleida, Martin, *Layang-Layang Itu Tak Lagi Mengepak Tinggi-Tinggi* (Emansipasi, 1999).  
 Aveling, Harry, ed. and trans., *Gestapu: Indonesia Short Stories on the Abortive Communist Coup of 30<sup>th</sup> September 1965* (Honolulu: University of Hawaii southeast Asian Studies Working Paper no. 6, 1975).  
 Putu Oka Sukanta, *Merajut Harkat* (Yogyakarta: Pustaka Pelajar, 1999).  
 Yudhistira ANM Massardi, *Mencoba Tidak Menyerah* (Yogyakarta: Yayasan Benteng Budaya, 1996).  
 William Frederick and John McGlynn, eds., *Reflection on Rebellion: Stories from the Indonesian Upheavals of 1948 and 1965* (Athens, Ohio: Ohio University Center for International Studies, 1983). [contents: Pram, “Acceptance”; Rukiah, “An Affair of the Heart”; Khayam, “Bawak,” and “Sri Sumarah.”]

## LEKRA (人民文化協会) と文化論争

- Ajip Rosidi, “Manifes Kebudayaan dan KKPI,” *Horison* (January 1987 and February 1987), “Masa Lalu Sebagai Sejarah” (August 1987).  
 Moeljanto, D.S. and Ismail, Taufiq, eds., *Prahaya Budaya: Kilas-balik Ofensif Lekra/PKI* (Bandung: Mizan, 1995).  
 Aveling, Harry, “Indonesian Writers and the Left, Before 1965,” *RIMA* 4: 1-2 (January-June 1970).